

黎明

題字は、校歌（玄関掲額）より



令和5年
3月7日（火）

思いが受け継がれていくことを

本日、市博物館副館長様、地域関係者の皆様方ご臨席の下、卒業証書授与式を挙行し、卒業生五十五名が旅立ちの時を迎えました。

コロナ禍の中を耐え忍ぶように三年間を過ごした卒業生たちですが、一月末の記録的な大雪がまるで遠い過去のように感じる暖かな春の空のもと、久々にマスクを外して晴れやかな表情で輝く姿を見せてくれました。

そんな卒業生たちに、本日の祝辞の中で、私自身の卒業式に当時の校長先生から贈られた話を伝えました。四十数年間の時を経て、思いが受け継がれていくことを願っています。祝辞の概要につきましては、裏面に掲載いたしました。一読いただければ幸いです。

保護者の皆様方におかれましては、九年間の義務教育を無事終えられ、今まさに「人生の時」を迎えられましたこと、心より喜び申し上げます。日々の子育ての葛藤の中、常に温かい御慈愛を注いでこられたことに篤く敬意を表し、また、本校教育にご理解とご協力を頂きましたことに深く感謝致します。

本日、お招きできなかった関係の皆様方にお詫びとともに、日頃より生徒たちを温かくお見守りいただきましたことに感謝申し上げます。

卒業生からのレガシー〜生徒心得を考える

卒業式を目前に控えた三日、全校集会で、生徒会からの報告と表彰伝達を行いました。

生徒会からは、頭髪や服装の在り方などを一人一人が主体的に考える取組を続けてきた結果を「生徒会宣言文（下段左）」としてまとめたことが報告されました。

生徒会役員から宣言文に込められた思いも伝えられました。そこには、「ルールに縛られるのではなく、本来の目標を失わず充実した学校生活を送るために適切に選択する力、自律する力を大切にしていこう」という旨の力強い言葉がありました。

また、結びに、これまで最上級生として学校をリードし、生徒心得についても一緒に検討してきた三年生への謝辞と生徒会活動を今後へ引き継ぐ決意が述べられると、生徒たちから大きな拍手を送りました。

現在、「校則」については、社会全体の問題の一つとして見直しが議論されています。今回の取組を通じて、改めて教育の原点を振り返って指導の在り方を考える機会としていきたいと感じました。

今後も、「未来をたくましく引き拓く生徒の育成」という学校教育目標を念頭におき、社会の変化や生徒たちとの対話をもとに、ルールについての指導を充実・発展させてまいりたいと考えています。

なお、今回の表彰伝達の対象は、以下（下段右）のとおりです。各教科や部活動での地道な頑張りを心から称えたいと思います。本校生徒たちのさらなる活躍を期待しています。

生徒会宣言文

令和5年 3月6日

生徒心得の見直しありがとうございました。生徒心得とは、生徒全員が気持ちよく学校生活を送ることができるようするためのものです。生徒会としては、生徒心得について生徒が自ら考えることを大切に行きたいです。生徒一人ひとりが、周りの誰が見ても、自信を持って「これなら大丈夫!」と言える自分を想像しながら、身だしなみについて考えてほしいと思います。胸を張って、自信を持って、学校生活を送ることができるようになっていきましょう。



令和4年度後期〜令和5年度前期 生徒会幹部役員

黒田 愛結 森 虹晴 中川 穂乃 平野 聖也 石垣 慶次 中尾 柚葉

【バレーボール部】

三泗選手権大会ブロンク優勝

三泗地区一年生大会未経験者リーグ準優勝

【バスケットボール部】

一年生大会Dリーグ 準優勝

【三泗小中学校書写展覧会】

出品 清水千尋・川戸日向子（三年）

樋口悠愛・池田詩織（二年）

伊藤夢彩・高橋明日香（二年）

【三重県小中学校書初め展】

入選 樋口悠愛・萩村紗蘭（二年）

佳作 早川早月・川戸日向子・武藤妃沙（三年）

黒田夕奈・池田詩織（二年）

濱口杏奈（一年）

【三泗小中美術展覧会】

出品 小泉鷹兜・鈴木理央・田中木萌

田中優彩・深草沙羽・森咲月

清水悠沙・杉田登威

堤結愛・細川ひより（三年）

竹内穂乃香・原麻里亜・小林悠斗

清原麻妃・矢田珠里亜・竹内彩乃

萩村もか・矢田彩芽

小野永俐菜・森虹晴（二年）

小林里彩子・沖永基矢・里中響

森瑞稀・平野聖也・須藤碧海

伊藤聡美・森脇世夏

石川由椰・高橋明日香（一年）

祝辞（抄）

《前略》卒業生の皆さん、卒業おめでとう。教職員一同を代表して、お祝いの言葉を贈りたいと思います。

先日皆さんに手渡された卒業アルバムに、私からのメッセージとして「至誠」と「創造」という言葉と石川啄木の歌を一首引用しました。「至誠」は、「至りて誠」つまり「きわめて、たいへん誠実である」という意味で、旧三鈴中学校の校歌にも見える言葉です。私が皆さんと過ごした時間はたったの一年でしたが、私を見る限りにおいては、この「誠実」については間違いなく、皆さんはその資質をすでに備えていると思います。

また、この「至誠」は、三重県に縁のある政治家で「憲政の神様」「議会政治の父」とも呼ばれた尾崎行雄も好んだといわれており、伊賀上野城が再建された折にしたためた直筆が天守閣に残されています。

戦争へと突き進んだ時勢の中で、強い信念のもと、誠を貫き、民主主義を守り抜こうとした尾崎行雄の気概溢れる生き方を支えた言葉として、心に刻んで頂ければと思います、皆さんに贈った次第です。

「至誠にして動かざる者、いまだこれあらざるなり」と言われます。誠を尽くせば人の心は必ず動くものと信じて、耳を傾けて真摯に相手の話を聴くことも大切にしてほしいと願

っています。

一方、「創造」には、新しく創り出す力「創造力」を伸ばすことに期待を込めています。

「創造力」を伸ばす教育は、旧水沢中学校で伝統として大切にされてきたと聞いています。創造力に限界はありません。あきらめず、気を抜かず、自分独自の「正解」を極めてくれることを願っています。

物事を生み出し、創り出すためには、これまでも機会あるごとに申し上げてきた通り、「なぜそうなのか」「どっちが正しいのか」と考え抜くことが大切です。「あたりまえ」や「常識」を疑うことも、時として必要ではないかと思

います。こうした姿勢をもって、社会に目を向けて考え、フェイクニュースがまん延しているといわれる世の中で、必要な情報を取捨選択する力を高め、真実を見抜き、そこから新たな創造を生み出すことを期待しています。

そして二つの言葉に、「ふるさとの山に向かひて言うことなし、ふるさとの山はありがたきかな」という啄木の歌を添えました。鎌ヶ岳をはじめとした鈴鹿の山々の裾野で育った西陵中学校の卒業生の中から、広い世界へ羽ばたく人材が生まれること、そして、何よりも一人一人が幸せな人生を送れることを願ってやみません。

最後に、卒業に際し、皆さんに、伝えたい話

がもう一つあります。それは、本校の第三回卒業生の私たちが卒業式の日、本校初代の角田春明校長先生から贈られたものです。先生は、私たちに、右手を体の前にかざすように言われました。

そしておもむろにこうおっしゃられました。「みなさん、右手の手のひらを見てください。」いわれた通り右手を眺めていると、「自分の鼻が邪魔になっていませんか？」と重ねられました。「あっ、そういえばそうだ」と思っていると、静かにこう続けられました。「では、それはいつからですか。最初からでしたか？ さっき、『鼻が邪魔ではありませんか』という前はどうでしたか」と。私はハツとしました。

このお話は、おそらく禅の教えを踏まえてのものだと察します。邪魔だ、気になるということは、どういうことなのか、どういう心の作用なのか。奥深い、意味のあるお話ではないかと思えます。十五の春に感じたことは、今も、精神の支えの一つとなっています。

邪魔になっっているもの、気に係ることがある時は、そう感じている自分の心を静かに見つめてみてください。このお話に込められた思想を皆さんにリレーしてきたことを誇らしく、また、ありがたく感じています。

これから出会うたくさんの人と豊かに交わり、目の前に広がる世界を逞しく切り拓いてくれることを願い、饒の言葉とします。《後略》